



## P R E S S R E L E A S E

### 親会社ダイムラートラック社、2024年に460,409台の車両を販売

2025年1月17日

- バッテリーEVの販売台数は4,035台に増加(2023年:3,443台)
- トラックアジア部門の販売台数は125,234台

三菱ふそうトラック・バス株式会社(本社:神奈川県川崎市、代表取締役社長・CEO:カール・デッペン、以下 MFTBC)の親会社であるダイムラートラック社は、2024年に460,409台のトラック・バスをグループ全体で販売しました(2023年:526,053台)。バッテリー電気自動車(EV)の販売台数は、2023年の3,443台から4,035台に増加しました。

FUSO ブランドを含むトラックアジアセグメントは、125,234台を販売しました(2023年:161,171台)。

ダイムラートラックグループの各セグメントおよびグループ総計の販売台数は下記のとおりです。

(単位:台)

セグメント名	2024年	2023年	増減
トラックノースアメリカ	190,428	195,014	-2%
メルセデス・ベンツ・トラック	126,477	158,511	-20%
トラックアジア	<b>125,234</b>	<b>161,171</b>	<b>-22%</b>
バス	26,646	26,168	+2%
グループ総計*	<b>460,409</b>	<b>526,053</b>	<b>-12%</b>
うちバッテリーEV	4,035	3,443	+17%

\*セグメント間取引による消去を含む

ダイムラートラック社は2025年3月14日(中央ヨーロッパ時間)に年次決算発表会を開催し、2024年の財務・非財務の重要指標についてグループ全体およびセグメント別に詳細を報告するとともに、2025年の見通しを公表します。

#### 三菱ふそうトラック・バス株式会社について

三菱ふそうトラック・バス株式会社(MFTBC)は、川崎市に本社を置く商用車メーカーです。ダイムラートラック社が89.29%、三菱グループ各社が10.71%の株式を保有しています。90年以上の歴史を持つFUSOブランドのトラックやバス、産業用エンジンを世界約170の市場向けに開発・製造・販売しています。日本初の量産型電気小型トラック「eCanter」による電動化や、運転自動化では大型トラック「スーパープレート」に国内商用車初のSAEレベル2相当の高度運転支援技術を実装するなど、先進技術の開発に積極的に取り組んでいます。

#### ダイムラー・トラック・アジアについて

ダイムラー・トラック・アジア(DTA)は、日本の三菱ふそうトラック・バス株式会社(MFTBC)と、インドのダ

イムラー・インディア・コマーシャル・ビークルズ社(DICV)を中心とした組織体です。世界最大の商用車グループであるダイムラートラックグループのアジア事業を共同で運営しています。製品開発、生産、輸出、調達、開発を共同で行うことで、グループ内でのシナジーを生み出し、革新的かつ信頼性のある製品をお客様に提供しています。

#### **FUSO ブランドについて**

「FUSO」はダイムラートラックのブランドの一つです。世界約170の市場において、トラックやバスといった商用車や産業用エンジンを展開しています。90年以上の歴史と日本ならではの品質や熟練技術による効率性や安全性、快適性が特徴です。小型トラック「キャンター」は世界中の様々な市場でトップシェアを獲得しており、日本初の量産型電気小型トラック「eCanter」をグローバルに展開し、商用車の電動化をリードしています。ブランドスローガン「Future Together」の下、FUSO はお客様とともに安全かつサステナブルな輸送ビジネスを未来へ繋いでいくことを約束します。